

# 「はじめに子どもありき」「授業を大切に」

岡山県浅口市立六条院小学校長

横溝 勇

## ■はじめに

様々ないきさつから、表題のような文章を書かせていただくことになったが、とうてい私にはそのような力量はないし、かつ、現在も現役の校長として悪戦苦闘している日々であるので、「師」を指導の「指」や、支援の「支」と読み替えて読んでいただければ幸いである。

私がこの紙面をお借りしてお伝えしたいことは、より一層困難性が増す今日の教育の現状を踏まえ、学校で、校長として、教師として何を大切にして実践しなければいけないかということである。このことを、教師としての自分史を基に述べさせていきたい。

## ■授業を大切に

30数年前、新規採用教諭として小学校に採用された頃、教師として何をすべきがよく分からなかったが、始業から終業まで子どもたちといっしょになって、よく遊び、よく学んだことが今でも鮮明に思い出される。

そうした中、赴任校の校長先生や同僚の先生方から、「学校で子どもは一日の大半の時間を勉強して過ごすのだから、授業をきちんと指導でき、指導が得意な教科を身につけなければいけない」

ということを何回となく教えていただいた。

最初の赴任校では、授業公開をする機会を多く与えていただき、同僚の先生方から厳しくも温かい指導をたくさんいただいた。「子どもにとつて分かる授業を」、「子どもの思考の流れを大切にしたい授業展開を」などの教師として授業の在り方はいかにあるべきかという基礎・基本的なことを徹底して指導していただいた。そうした中で、子どもたちとの関係はうまくいくのだが、授業はなかなか思うようには展開することが出来ずにいた。

社会科の授業を見ていただいた後のことである。指導主事から「先生、授業がうまくなるためには毎学期、単元レベルで指導案を作成し、記録を取って授業を同僚の先生方に見ていただき、気づいたことを指摘していただきながら授業改善を10年間継続して行えば、必ず教科の本質や子どもの特質を踏まえた授業展開が出来るようになると思います」と教えていただいた。それから、10年間近くその「教え」を守り、つたない実践をまとめながら取り組んだ。

ある時、本時の目標とするところを無理に教えるよとはせずに、子どもたちの考えていること、思っていることを大切にしたい授業展開をしてみることにした。すると始めて、教材を媒介として、

私と子どもたちとの授業でのやりとりがうまくかみ合ったような気がした。その時から、少少だけ授業に自信が持てるようになりはじめた。それから何年後かの帰りの会の後、ある子どもが私のところに来て、「先生、今日の勉強はよかったですね。本当にみんなで勉強をして高まった気がしました。また、明日もみんなでもっとよい勉強をしたいですね」といつてくれた。授業を大切にしてきた者としてはとてもうれしく感動したことを今も鮮明に思い出す。

## ■基本的な生活習慣を大切に

その後、しばらく学校から離れ、10年ぶりに管理職として学校に勤めるようになったときには、学校は大きく様変わりをしていた。保護者や子ども、教職員の意識の変化もさることながら、何よりも学校において、日々の一時間一時間の授業が大切にされていないこと。授業の前提となる基本的な生活習慣の確立や学びの前提となる約束事、学び方が定着していないと感じた。子どもたちの学びや育ちを保障するためには、どうしてもこれらのことに取り組まなければならないと感じたのは、校長として赴任した次の学校においてである。

様々な要因で落ち着けない子どもたちに、落ち着いたある学校生活を送らせ、日々の学校生活を充実したものとするためには、「早寝・早起き・朝ごはん」に代表される基本的な生活習慣の確立を図ること。また、社会や学校のルールや約束を守ることの大切さを様々な活動を通して指導した。保護者や地域にも呼びかけながら講演会や「簡単朝食レシピ」コンテストを開催するなどして啓発

に努めた。そうした中で、子どもたちは次第に落ち着きを取り戻し、事故やけがなども減少した。時を同じくして、文部科学省も全国的に「早寝・早起き・朝ごはん」運動に取り組み始めた。

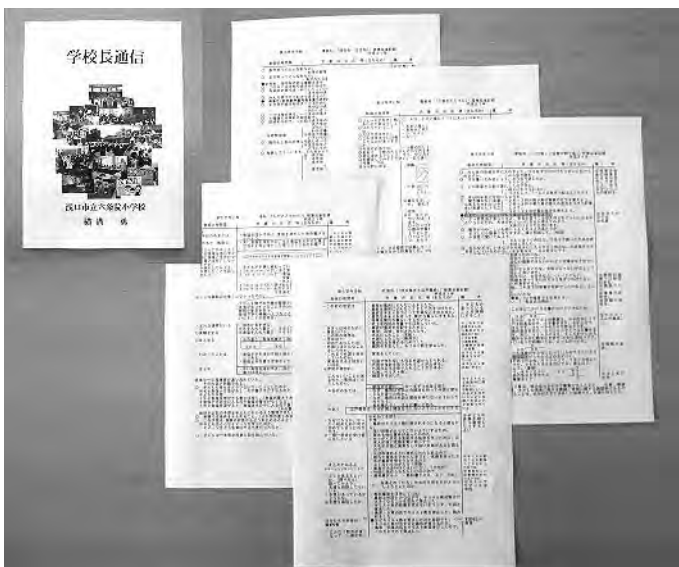
### ■子ども一人ひとりの学びや育ちを大切に

次に取り組んだことが、学校が学校として存在する生命線である授業改善である。授業が成立するためには、授業に対する構えなども大切である。まず「物構え」「身構え」「心構え」などを指導していくことが大切であり、それらに加えて、上手な話し方、聞き方、ノートの取り方、教科や領域のねらいと特性を生かした学び方を学ばせていくことも重要である。そうした約束事を校内で検討して作成し、統一して学級間や学年間で差が出ないよう、学年を追うにつれ発展するように取り組んでいった。

そして、日々の授業である。日々の授業にあつては、「めあて」と「まとめ」のある授業をすること。学習展開にあつては、子どもたちの「考える場」を保障すること、様々な「活動」を取り入れること。この3点を大切にした授業展開をすることを校長通信などで先生方に訴えた。こうした取り組みにより、日々の授業にだんだんと活気が出て来て、子どもたちのやる気はもろろんであるが、先生方も意欲的に授業に取り組み、校長室に先生方が教材解釈や学習展開の仕方について相談に来ることも多くなっていった。

そうした中で、先生方に次のような提案をした。「子どもたち一人ひとりの学びや育ちを保障するためには、校内の教員だけではなく、外部の多く

の先生方にも授業を参観してもらい、参観で気づいたことなどを指摘していただき、授業の改善に努めることが大切である。そうした観点から公開授業研究会を実施しようと思うのだが、皆さんはどう思われるか」というような趣旨の話をした。その地区は公開授業研究会をあまり実施したことのない地区であったので反発もあるのではないかと考えていたが、意外にも先生方はその提案に賛同して、進んで授業に取り組んでくれた。こうした取り組みの中で、生徒指導上の悩みから、どうしても子どもたちによりよく理解させることが出来るかということが職員室での話題となるようになっていった。



▶ 校長通信および授業反省記録用紙

### ■おわりに

その後、私は転勤したが、今もその小学校では自主的に公開授業を実施している。

現任校では、そこでの取り組みを生かすとともに、地域の実態を踏まえながら、「はじめに子どももありき」「授業を大切に」を教職員の合い言葉に、年間7〜8回の公開授業を実施している。

校長としての職務は多忙でその範囲も広く、私自身幼稚園長も兼務しているが、本務は子どもを育てることであるということを忘れてはならないと思っている。毎日学級の様子や先生方の授業を参観し、放課後に授業について話し合い、「まとめ」を作成して、翌日には授業者の先生に渡すように心がけている。

最近、30数年前によく読み、よく勉強させてくれただいた故斎藤喜博先生の著書の中で書かれていた次のような一節をよく思い出す。

「私は、『授業』ということが好きです。教師として、『授業者』であることを、この上なくほこりにも思っています。『授業』をみることも、楽しくて面白くて仕方がありません。それは授業が、それと対決して、追求し深めてゆけばゆくほど、無限に高い世界をみせてくれるからです。そういう授業によって、子どもは無限に自分のもっている可能性を実現し創造するし、教師もまた、それによって自分を変革し、成長させていくことができるからです。」

喜博先生が書かれていることのどれだけを私が本当に理解出来ているかは分からないが、本校の教職員と共に、今後も子ども一人一人の能力や適性の伸長に尽力したいと思っている。